

I

次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

コミュニケーションの仕方も、質が劣化しつつある。ことばを用いつつも、実は言語本来の使用の方法からはずれた、サル的なスタイルへと先祖返りしつつある。それがひいては、「キレ」やすい人間を生み出す土壤となつてゐる——というのが本章のテーマである。

こう書くと、そんなバカなと思われるかもしれない。サルのようにコミュニケーションをはかつてゐるといつても、ちゃんとことばを使っておしゃべりしているではないか、サルのように「キヤー」とか「ワアー」とか意味不明の雄たけびを出してゐるばかりでない、と。

だが話はそう単純ではない。なるほど人間は、あくまでも言語を使つて会話しているわけで、サルとは異なる。しかし、それだけで「言語的」な意思疎通をしているといいきれるかというと、Aそうとは限らない。

例えば、「電話」と子どもが親にいつた場面を想定してみよう。これは、立派な一語文である。ただし、その意味はさまざまに解釈可能だ。「電話に出て」「電話をかけて」といつた、話し相手への要求とも取れる。他方、「今電話で話している最中である」という叙述文としても、理解することができよう。では、どちらが正しいのか？

それは、「電話」という字面からでは判別できない。ふつう私たちは、発話の意味を把握しようとする際、言語の情報を手がかりに、推論によつて相手が何を伝えたいのかを推しはかるのである。「で・ん・わ」という音の組み合わせ以外の手がかりとして、イントネーションや声の調子、また音声要素だけにとどまらず、顔の表情やジエスチャー、今、話がなされた場の状況などの要因を斟酌する。加えて、過去の記憶から話し相手に関する知識なども引き出して、総合的に相手が何を伝えたかったのかを判断するのである。

これは、いわれてみれば当たり前のことに違ひない。しかし一般に言語というのは、たいへんシンボル性の高い記号であるとみ

なされている。ひつきよう言語的コミュニケーションというのは、記号性の高い情報の伝達手段と受けとめられがちであるが、その記号の指示する意味の適切な解釈を支えているのは、全然記号的でない側面なのである。

それどころか、記号を字義通り記号として解釈することは、およそ非人間的な意味理解であることが、最近の研究から明らかにされつつある。というのも、人間以外の靈長類の行う音声コミュニケーションこそ、まさにそれにあたるからにほかならない。

サルにおいても、人間の言語体系における単語のようなものの存在は決して珍しくない。人間に系統的にもつとも近い靈長類といふと、チンパンジーに代表される類人猿であることは周知の通りである。逆に靈長類として進化的にいちばん下等なのは、原猿と総称されている。マダガスカルに生息しているキツネザルが典型として、よく知られていよう。

ところが、そのキツネザルにすら、「こ」とば^Bもどきは存在する。例えは彼らの天敵にあたるような捕食動物が近づいてきた場面を思い描いてみよう。そういうとき彼らは独特の声を出す。この声を耳にすると、周辺にいる仲間（同種個体）はただちに自らの身を守る防御反応を行う。結果として群れに危険の接近を周知する機能を実行しているところから、警戒音と命名されている。

ただし、天敵の種類はさまざまである。大別しても、空からやつて来るものと、地表から来るものとがある。それによつて防御の手段の講じ方も、おのずと異なつてくる。空からの場合は、地表近くへ身を伏せた方がよい。だが、もし地表から危険が迫つてきているのに、空からのときのように逃避を企てるといふと、とんでもないことになる。

そこで淘汰^{とうたつ}圧が働き、キツネザルは複数のタイプの警戒音を出すにいたつたのだつた。例えはAとBという二種類の声が存在するといふ。空から捕食動物がやつてくるとAの声を出す。すると、聞いた仲間は地表へ逃げる。他方、地表から敵が来るとBの声を出す。その際は、仲間は木の上へと逃れる。

AもBも、警戒警報である。

□ C

Aは空からの危険、Bは下からの危険を意味している。これは、ほとんど単語による表現に近い。そういう観点では、彼らも記号的コミュニケーションを行つてゐることになる。

それどころか、彼らの方が人間よりも、厳密に仲間の発する音声を記号的にとらえているのである。ヨーロッパの昔話で、いつもいつも「狼が来た」とウソを村人に伝えて驚かせては喜んでいた少年の物語というのをご存知だろう。村人たちは、はじめは信

じこんでびっくりしていたが、そのうち誰も信じなくなつた。あげくのはてに、本当に狼が来ても誰にも助けてもらえず、羊を食べられてしまつた少年のエピソードである。

ああいうことは、キツネザルでは起こらない。彼らだつたら極端なケースとして、一〇〇万回「狼が来た」といわれても、やはり逃げることだろう。警戒音の認識に、音以外の手がかりは介入しない。ともかく身の危険にかかわることだから、少々いかがわしい情報であつても、とりあえず信じた方が安全、という発想が働く。サルの理解の仕方は、柔軟性に欠けるのだ。

「柔軟性を欠く」と書くと、融通がきかず頭が悪いみたいに聞こえるかもしれない。□ D シグナルの記号としての意味作用に忠実であるという意味では、人間より抽象度の高い認識を行つてゐると言ひ換えることもできなくはないのではなかろうか。

人間は、過去の経験にもとづいて、ことばの意味理解を変えていく。反対にこのことは、発話をう側も、常に相手に聞き入れてもらえるよう配慮して話をする意を意味している。そして、聞き手は相手がこちらを意識して話をしていることに気づいていふ以上、その意図を把握しつつ、発話内容を吟味する。

(中略)

つまり言語理解というのは、意外なほど記号的でなくて、反対に相手の心を読む（発話を手がかりに心理を推測する）過程であることがわかる。むしろサルの方がよっぽど厳密に記号類別に依拠して情報伝達を行つてゐるのだ。

ところが、最近の日本人を観察してみると、そのコミュニケーションはこの言語進化の進んできた方向を逆行してゐるよう思えてならない。つまり、ことばのメッセージを常に記号として把握する傾向が高まつてゐる。そして、そういう認識の仕方をサルが実行している以上、サル^E的な方向へとコミュニケーションのスタイルを変えてきた」という結論にたどりつくのだ。

少しむずかしく書くと、今まで述べてきた、いわゆる人間独特の言語による意思疎通はふつう、「意図明示的で推論的なコミュニケーション」と呼ばれている。「意図明示的」というのは、言語のような、指示示す対象と記号との関係が恣意的であるシンボルを媒介にして、伝達の意図があることを話す手が聞き手に明らかに示し、そのことで相手の注意をひいてますよ、ということである。「推論的」というのは、記号そのものが指示するのみでは伝えきれない内容を、聞き手が推論して補つてやらないと、適切に情報

の授受ができないということを意味している。注意を話者に向けるように仕向けられた聞き手は、耳にしたことばを実はほんの手がかりにしているにすぎない。そこを突破口にして、話し手が意図した解釈にたどりつくべく推論して初めて、言語的コミュニケーションは成立するのである。

この人間が行う推論過程の原理やメカニズムを解明することの重要性は、ことばを扱う科学の中でも、ごく近年、認識されはじめたばかりである。そういう言語科学の中の領域は、語用論と呼ばれるようになつてきている。

そして、語用論研究によつて初めて認められるにいたつた、ことばを理解する上での人間の能力は、語用論能力という名称で知られるようになつてきた。これは人間の行う認知情報処理の中の発話解釈に関与する側面に対応する。

こうみてくると、昨今の日本人のコミュニケーションの特徴である「サル化」とは、すなわち語用論能力の衰退と表現することができる。そして、その傾向の背景としては、社会のIT化、人間同士の情報伝達がケータイのような代物への依存度を大きく増したことが考えられるのだ。

メールのやり取りを通じて、何がしか特定のテーマについて議論をたたかわせたことがある人なら、誰でも気づくことだと思うのだが、主張を交換するにつれて、意見のくい違いによつて話し合つてゐる主題からそれでいくことが往々にしてある。あるいは感情的なもつれや、枝葉末節についての詮索^{せんさく}が起ることも珍しくない。

話が堂々めぐりしたとする。一方がAといい、他方がBと応ずる。それにまたCと答え、それに再びDと反応したとしよう。やり取りが二度ぐらいだと齟齬^{そご}は少ないのだが、三度目に一方がEと主張すると、それに對し、相手が「あれ、Eとあなたはいつるけれど、前はCと主張した。EとCとは論理的整合性がないのでは……」という応答が、必ずといっていいほど生じてくる。

すると一方は、「いや、Cといったのは、あなたの受けとつたような意味なのではなくて、Bという」意見に對し、かくかくしかじかのニュアンスで述べたにすぎない。それは誤解だ」と反応したとする。するとさらに他方は、「いや私がBといった意図は、あなたの考へているのとは異なつていた……」というふうに、交換した発言内容をめぐつて堂々めぐりが始まる。そして、あげくのはてに「いった、いわない」の水かけ論に発展し、双方とも疲弊する。

どうしてこんなことになるかというと、画面上の字面だけでメールのメッセージとしての意味をとらえていると、どうしても書き手の意図が発話の際ほど忠実に読み手に伝わらないからだと、考えざるをえなくなる。

一回一回のメッセージに關してみると、理解のズレはさほど大きくないらしい。ただ、少し角度がくい違つてゐるだけでも、何度も意見をキヤツチボールしていくと、そのギャツプはどんどん大きくなつてしまふ。あげくのはてに、「ズレている」と気づいたときは修正がむずかしくなつてしまつてゐる、ということのようなのだ。これはメールの使用者が、十全な語用論能力を所有していたとしても、不可避なことであるらしい。

パソコン通信の歴史を振り返つてみると、当初、人々はこの危険に無防備であつた。結果として大多数のメール使用者が、同じようなトラブルに巻き込まれ、痛い目に遭つたと思われる。

そこで対策が講じられるにいたる。具体的には、独特的のアイコン (icon) を開発し、文字によるメッセージに適宜、挿入するという手法が発達した。典型的には、顔の表情を模したものがそれである。

ケータイメールで、「かお」と文字を入力し、変換させてみよう。「顔」といつた漢字とは別に、ほとんど無数ともいえるアイコンGが出てくるに違ひない。私のケータイでは、二六通りにのぼる（中略）。

これらを適宜みつくるつて、文中・文末に挿入することで言外の意を表現するようになつてきた。スマイルの表情など、もつとも頻繁に用いられる一つだらう。ちよつと皮肉っぽい文を書いたあとにつけたりする。

皮肉を書いているんだけど、悪意はありませんよ、ほんの冗談ですよ、ということを伝えたいのだ。そうしないと、真に皮肉つていると思われて、人間関係をこじらせるのではという、送り手の推測からの付加である。

（中略）

これは、いかにも現代日本の表現方法であるようだ。私見であるが、欧米ではこのようなアイコン使用はほとんど見られないという印象を強く持つてゐる。周囲の知人に尋ねてみても、スマイルアイコンを使うアメリカ人がいるという例が、一件あつただけだつた。メールの使用は日本より盛んであるのに……。

意味が多義的に取れる文を送つて、冗談ですよというとき、文末にかっこをつけ、中に laugh とか smile という文字をはさむというケースはある。これは日本でも従来、座談などを記録する際に、(笑) などのようによく用いられてきた表現方法である。しかし、これはあくまでシンボルによる情報の付加にとどまっている。

□ H 、顔マークがユニークなのは、もう言語という抽象的表記スタイルを捨て去つたという点にあるだろう。人間の表情を直接に具象化して用いている。アイコンと呼ばれるのは、シンボルと異なり、指示対象と記号との対応が恣意的でないからにほかならない。スマイルマークは無条件に好意の表れであつて、これを悪意の表明と関係づけることは絶対にできない。シンボルより、一段レベルの低い次元で認知情報処理される代物にほかならない。

そして現代日本において、人間はシンボル使用に踏みとどまつて、メツセージのやり取りを交わすのを放棄し、一レベル水準を下げたやり方へと移行を始めたのである。くり返すが、メールというコミュニケーションツールが最初に開発されたのは、欧米においてである。ケータイメールが普及しているのは日本ばかりでなく、むしろ世界でもつとも普及しているのは北欧である。それなのに、アイコンは日本人のみが多用している。そこには漢字文化の影響もあるだろう。しかし、コミュニケーションは確実にサル化の方向へ向かいはじめた気が私にはする。

むろんこういう考えに異議があることは百も承知である。欧米の言語体系に含まれているのは、原則としてすべて表音文字である。それに対し、日本人は表意文字を多用する。漢字は一つ一つが固有の意味を持ったシンボルとみなすことができる。だが、それらも、もとはといえば対象の形状を模したようなアイコンから誕生したものが大半だ。そういう文字に慣れしたしんでいるから、顔アイコンのようなものが誕生したと考えられなくもない。それをコミュニケーションの低次元化と一概に呼ぶのは、暴論という意見もあるだろう。

なるほど、最初に新たな記号を思いつくのにそういう土壤^Iが関係したことは、まちがいないだろう。しかしである。それだけで、ここまでアイコンの使用が流布したとはやはり考えにくいのではないだろうか。

問一 傍線部A 「そうとは限らない」と筆者が考える理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 1。

- ① 人間は言語の情報を手がかりに相手の伝えたいことを推測することでコミュニケーションをとるから。
- ② 人間は言語だけでなく、過去の記憶から相手に関する知識がないとコミュニケーションをとることができないから。
- ③ 人間は言語と顔の表情やジェスチャーの斟酌だけでコミュニケーションをとるから。
- ④ 人間は雄たけびではなく、言語を使ってコミュニケーションをとっているため、動物とは異なるから。
- ⑤ 人間は雄たけびをあげることで、コミュニケーションをとることができるのであるから。

問二 傍線部B 「それ」が指示する内容として不適切なもの、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 2。

- ① 音声の意味の認識に音以外を介入させないこと。
- ② 音声を記号的にとらえること。
- ③ 記号を一義的にとらえること。
- ④ 記号の意図を把握して吟味すること。
- ⑤ 記号の意味作用に忠実であること。

問三 次の空欄部 **C**、**D**、**H**に入る語句として最も適切な組み合わせを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答

番号は **3**。

- | | | |
|-----------|---------|------------|
| ① C ..しかし | D ..つまり | H ..それに対し |
| ② C ..ただし | D ..しかし | H ..それに対し |
| ③ C ..ただし | D ..つまり | H ..言い換えると |
| ④ C ..または | D ..しかし | H ..反対に |
| ⑤ C ..または | D ..つまり | H ..言い換えると |

問四 傍線部 E 「サル的な方向へとコミュニケーションのスタイルを変えてきた」と筆者が考える理由はなにか。次の形式に従つ

て三十五字以内で記入しなさい。ただし、「ケータイ」「語用論能力」という二語を必ず用いること。

解答番号は**国語解答用紙**。

日本人のコミュニケーションは、**三十五字以内**にあるため。

問五

傍線部F「主張を交換するにつれて、意見のくい違いによつて話し合つてゐる主題からそれでいくことが往々にしてある」とあるが、筆者がこのように考へる理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 4。

- ① メールのやり取りは書き手の意図を忠実に読み手に伝えるため。
- ② メールの書き手は語用論能力をもつていないため。
- ③ メールの文字は発話よりも書き手の意図を伝えないため。
- ④ メールの文字は発話よりも語用論的な意図を伝えるため。
- ⑤ メールに書くことは発話より難しいため。

問六

傍線部G「『顔』といった漢字とは別に、ほとんど無数ともいえるアイコンが出てくるに違いない」とあるが、日本人がアイコンをメールに挿入する目的は何か。本文の内容に即して最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 5。

- ① 意味が多義的にとれるようにするため。
- ② 意味はなく單なる記号を表すため。
- ③ 言外の意味を言葉に付け足すため。
- ④ 送り手の感情だけを相手に伝えるため。
- ⑤ 聞き手の推測に対する補足を行うため。

問七 傍線部I「そういう土壤」という言葉が指示示している内容として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は 6。

- ① 漢字はそれぞれ音素や音階を表すものであり、日本人は指示対象と漢字が直接的に対応することに違和感がない環境にあること。
- ② 漢字の多くは対象の形状を模すことで作られたので、日本人は指示対象と記号とが直接的に対応することに違和感がない環境にあること。
- ③ 漢字はそれぞれ固有の意味を持つたシンボルとみなせるので、日本人は指示対象と漢字が直接的に対応しないことに違和感がある環境にあること。
- ④ 日本語には様々な意味が含まれるため、日本人は指示対象と漢字が直接対応しないことに違和感がない環境にあること。
- ⑤ 日本語には様々な意味が含まれるため、日本人は聞き手にその意図を正確に伝えたいという願望をもつ環境にあること。

問八 次の1～5の傍線部にあてはまる漢字を、それぞれ①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は

7
9

1 高等裁判所の判決を不服として、最高裁にヨウコクをした。

- ① 広 ② 抗 ③ 公 ④ 興 ⑤ 皇

7

2 アスリートに対するSNS上でのチュウショウが問題となっている。

- ① 象 ② 小 ③ 傷 ④ 焦 ⑤ 省

8

3 政府は今回の記録的大雨についてゲキジン災害に指定した。

- ① 甚 ② 陣 ③ 人 ④ 仁 ⑤ 腎

9

問九 次の問いに答えなさい。解答番号は 。

1 次の空欄部「　」に入る言葉として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

今、手許に五つの宝石を持っているとする。このとき、「宝石を五つも持っている」と考える人と、「宝石を五つしか持っていない」と考える人がいる。前者の考え方をオプティミズム（楽観主義）というが、後者の考え方を「　」という。

- ① アイデンティティ
- ② カタルシス
- ③ デカダンス
- ④ トラウマ
- ⑤ ペシミズム

2 次の四字熟語とその意味の組み合わせとして不適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

11

- ① 東方西走 一 一日が非常に長く感じられること。
- ② 我田引水 一 自分に都合のいいように言つたりすること。
- ③ 朝三暮四 一 目の前の違いに心を奪われて、結果が同じになることに気が付かないこと。
- ④ 朝令暮改 一 命令や方針が頻繁に変わつて定まらないこと。
- ⑤ 馬耳東風 一 他人の意見や忠言にまったく反応せず、聞き入れないこと。

3 パラドックスの意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

12

- ① 二つの相反する事柄の板挟みになること。
- ② ある物事について、他と比較したときに見られる違い。
- ③ ある物事についての、こうあるべきだという根本の考え方。
- ④ 解きがたい矛盾を抱えた表現や事態。
- ⑤ 納得性のある推論を行うこと。

次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

第二次世界大戦後、全体主義の価値観・社会規範を受け入れていた敗戦の人々は、信じていた価値観の崩壊によつて、再び深刻なニヒリズムに陥つた。また戦勝国にしても、先の大戦以上の大量殺戮^{さつりく}を眼にし、それまでの価値観が大きくゆらいだことに変わりはない。

このニヒリズムの新たな受け皿になつた価値観、思想はさまざまだが、何といつてもマルクス主義の影響力は大きく、歴史上類を見ないほど広範にわたつていた。それは、革命を経て社会主義国になつた旧ソ連や東欧圏だけでなく、資本主義諸国の人々をも魅了し、世界規模の運動にも発展していった。なぜならマルクス主義は、貧困や生活苦、戦争といった諸問題が、すべて資本家と労働者が対立する資本主義国家の矛盾によるものだと説明し、誰もが平等な社会主義の体制に変えれば、国家間の紛争も貧困などの生活苦も解決する、と主張したからだ。それは戦争に疲弊し、貧困に喘いでいた人々にとって、大きな希望となつたのである。

しかし、一九六〇年代に頂点を迎えたマルクス主義への熱狂も、七〇年代後半になると退潮の兆しを見せはじめた。その理由は二つある。

ひとつは、マルクス主義を実践した社会主義諸国において、多くの矛盾が生じている事実が広く知られるようになつたこと。一九五六年、フルシチヨフによつてスターリンの大肅清が暴かれて以来、「プラハの春」（六八年のチエコスロバキアの改革運動）に対するソ連の侵攻、中国の文化大革命（六〇年代後半）、中ソ紛争（六九年）、カンボジアにおける大虐殺（七六年）など、絶え間ない肅清と虐殺、侵略、戦争は、資本主義諸国の人々に大きな失望を与えることになつた。そして八〇年代にソ連を中心とした東欧圏の社会主義国家が次々と崩壊したことで、多くの人にとって、もはやマルクス主義は過去の理想と化してしまつた。

もうひとつの理由は、先進資本主義諸国においては高度消費社会が実現し、多くの人が豊かな生活を享受できるようになつたことだ。貧困を脱した人々にとって、社会の抑圧感はなくなり、社会を変革する必要性は消失した。革命は豊かな生活が崩れるリスクさえ感じせるものとなつた。そのため、マルクス主義による理想社会の夢は搔き消されたのである。

だがさらに重要なのは、こうした高度消費社会の実現、つまり豊かな生活の実現によって、個人が各々の価値観を信じて自由に生きる可能性が大きく広がった、という点にある。このことはマルクス主義を信じているか否かにかかわらず、とても大きな意味を持つていた。

貧しければ、嫌な仕事でも辞められず、余暇を楽しむ余裕もなく、日々の暮らしだけで精一杯になるだろう。だが金銭的にも時間的にも余裕ができれば、自分なりの思考や感性に基づいて、やりたい仕事を選んだり、仕事以外の楽しみを見出すことができる。つまり、より自由に生きることができるのだ。一方では、都会へ働きに出た大勢の人々は、地域共同体との関係が希薄になり、伝統的な価値観の桎梏しづこくは弱くなるため、また都会の新しい価値観にも触れることで、自分なりの生き方を模索しはじめる。

こうして伝統的価値観が崩れて個人主義が強まる、ライフケーストは多様化し、人それぞれの価値観を許容しあうようになる。その結果、価値観の相対化はますます広まり、自由に生きられるようになる一方で、自分なりの価値観を持てない人々は、生の意味を見失い、深刻なニヒリズムに陥ってしまう。そして自分の存在価値を確認するために、他者の承認を過大評価しがちになる。

Bこれは先進資本主義諸国に共通する傾向と言つていいだろう。無論、消費社会化の進展、伝統的価値の崩壊の程度、マルクス主義の影響力の強さなどによって、国ごとに微妙な違いはある。しかしそれでも、資本主義の進展によって高度消費社会が成立し、民主主義と個人主義の浸透とともに個人の自由が尊重されるようになれば、遅かれ早かれ、こうした状況が訪れる。

それは、近代社会が自由を実現する上で、避けてとおることのできない問題なのである。

日本もまた、現在、豊かな社会が実現して自由な生き方が可能になっているが、その反面、相対主義とニヒリズムが広まっている。それは長い目で見れば、明治以来の近代化によるものだが、より直接的な影響という点では、高度経済成長を挙げることができる。

日本は第二次世界大戦の敗戦によって、天皇への崇拜、国家の繁栄に対する希望など、それまでの価値観は大きくゆるがされたが、新たな「大きな物語」が登場し、敗戦によるニヒリズムを払拭することができた。

まざマルクス主義と戦後民主主義が知識人層の新たな価値観となり、一九六〇年代には全共闘を中心に大きな社会運動にさえ発展している。その一方で、がんばって勉強をして大学に行き、都会に出て仕事をすれば、貧しい生活から脱し、欧米（特にアメリカ）並みの生活を手に入れることができる、という「大きな物語」も信じられていた。それは、車、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、クーラーなどがある、便利で快適な生活であり、綺麗きれいな服で着飾つた、都会的でおしゃれな生活への憧れでもあつた。その実現に可能性を与えていたのが、高度経済成長である。

しかし一九七〇年代の半ばには、状況は大きく変化する。高度経済成長の時代が終わり、憧れていた豊かな生活が実現するようになつたからだ。

生活が豊かになれば、社会を変革する必要性は感じなくなつてしまう。それに加え、連合赤軍によるリンチ殺人や浅間山荘事件の実態を目の当たりにした知識人や学生は、マルクス主義に失望し、そこに理想を見出すことができなくなつた。また豊かな生活は、実現されてしまえば、もはや憧れの対象ではなくなり、がんばっていい生活を手に入れる、という希望も消えてしまう。

こうして、戦後、大きな影響力を持ち続けた価値観は崩壊し、豊かな生活への夢は消失した。また、多くの人々が都会へ出て働き、核家族を形成して新しい生活をはじめていたため、地域共同体や大家族は解体し、伝統的な価値観も急速に失われつた。このことによつて、社会共通の価値観、「大きな物語」は歴史の舞台から姿を消し、個人主義と価値観の相対化が社会全体に浸透していったのである。

一九八〇年代に高度消費社会に入ると、多くの人々は生活にゆとりが生じ、個人は自分なりの価値観で自由に生きればよい、という考え方も広まつた。こうした価値相対主義の進展を後押ししたのが、ポストモダンと呼ばれる現代思想であつた。その代表格であるフーコー、ドゥルーズ、デリダといった思想家たちは、絶対的な価値観は存在しないと主張し、特定の価値観に偏る危険性について、周到な論理で説明してみせたのだ。

確かに社会に共通する価値観が存在しなければ、自由に生きる上で制約が少ないのである。そのため、価値観の相対化はおおむね好意的に受け止められてきた。しかし一方では、何をすれば周囲に認められるのか、生きている意味を実感できるのか、その方向

性が見えなくなるのも事実だ。すなわち、ニヒリズムと承認不安の蔓延が懸念される。
まんえん

特にバブルの崩壊以降、豊かな生活さえも危うくなつたことで、この不安はより一層深刻なものになつてゐる。なぜなら、就職がままならないフリーターや派遣社員の人々は、職場の集団的承認が十分得られないだけでなく、結婚によつて親和的承認を得ることも難しいからだ。

このように、現在、承認不安は社会全般に広まり、深刻な苦悩をもたらしている。社会共通の価値観が失われたことは、ある意味では自由の可能性を拡げたし、もはや自由は社会を変革して勝ち取るようなものではなくなつた。しかし同時に、周囲の承認を得るための規準も見失つてしまつた。そのため多くの人々は周囲の人間に同調しがちになり、過度に気を遣うあまり、自由であるはずなのに一向に自由を感じることができない。自由という大海のなかで羅針盤を失い、さまよい続けている。

こうして、近代社会が生み出した「自由と承認の葛藤」は、現代において新たなステージに移行した。それは自由が拡大する一方で、承認を得る可能性が狭くなり、じわじわと承認不安が満ちてくる、といった現象として捉えることができる。現在の日本社会は、こうした傾向が顕著に現われているのである。

近代になつて「自由と承認の葛藤」が生じたとき、最初に「個人の自由」と葛藤していたのは、「社会の承認」であつた。

近代以降、少しずつ自由に生きる条件が整い、また自由の意識が浸透しはじめるに従つて生きることは、自己不全感をもたらすようになつた。しかし、社会の価値観に従わなければ、自己価値の承認は得られない。そのため、自由を求める一方で、ある程度まで自己を抑制せざるを得ず、ふだんの自分は社会の価値観（社会規範）に合わせた「偽りの自分」にすぎない、「本当の自分」は社会に抑圧されている、と感じていたのである。

現在では、□Dは大きくゆらいでいるため、社会の抑圧性はあまり感じなくなつてゐる。そのため、自由に行動する可能性は確実に拡がつてゐる一方で、何をすれば社会に認められるのか、誰もが認めるような価値ある行為とは何なのか、その規準が不透明になつてゐる。形骸化した□Dに準じて行動しても、それを周囲が承認してくれるのか否か、あまり確信を持つことができないし、そこには承認の規準が見えない分だけ、強い承認不安が生じやすい。

こうした状況においては、周囲にいる人々（身近な人間）に認められるか否かが、より重要な要素になつてくる。自分の行為に価値があるのか、それを自分で確かめる参照枠がない以上、誰か適当な人間に確認してみるしか道はないからだ。

E

たとえば同じ職場で仕事の価値観を共有していても、ちょっとしたコミュニケーションの齟齬^{そご}や行き違いで、たちまち緊張関係が生じ、仲間はずれ、揶揄^{やゆ}、陰口、といった事態が生じてしまう。まして仲間や友だち関係のように、共有された価値観が最初から曖昧で流動的な場合、その都度の状況ごとに、相手が好む行為かどうか、仲間が共感してくれる行為かどうかが、仲間の承認を維持する上で重要な要素となる。

こうしていま、個人が葛藤する対象は「社会」から「身近な人間」へと移っている。そのため、親や所属集団など、身近な人々の言動に対する同調や迎合を繰り返す人も増えているのだが、こうした状況が長く続ければ、周囲に迎合している自分に嫌気がさし、「偽りの自分」を演じていてるようを感じられ、自分が本当は何をしたいのか、あらためて問い合わせことになる。そして「本当の自分」でありたい、と強く願うようになる。

現代の「自分探し」は、こうした親や所属集団の抑圧から「本当の自分」を解放しようという試みであり、それは同時に、新たな承認の可能性を求める当所^{あてど}のない旅なのである。

（山竹伸二『認められたい』の正体　承認不安の時代』講談社　二〇一一年より引用　問題作成の都合上一部変更）

問一 傍線部A 「何といつてもマルクス主義の影響力は大きく、歴史上類を見ないほど広範にわたっていた」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 13。

- ① 第二次世界大戦中に全体主義を受け入れていた人々は、自責の念を持つていたから。
- ② 第二次世界大戦中に全体主義を受け入れていた人々は、信じていた価値観を否定したいと思ったから。
- ③ 第二次世界大戦で活力を失った人々は、マルクス主義が自国の社会主義体制を批判してくれると思ったから。
- ④ 第二次世界大戦で活力を失った人々は、マルクス主義が旧ソ連や東欧国だけでなく世界規模の運動になると思ったから。
- ⑤ 第二次世界大戦で活力を失った人々は、マルクス主義が悲惨な現状と将来への不安を解決してくれると思ったから。

問二 傍線部B 「先進資本主義諸国に共通する傾向」とあるが、その内容として適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 14。

- ① 伝統的な価値観の束縛が緩むと、人は自分の生き方を模索し始めるという傾向
- ② 自由に生きることができるようになると、人の暮らしに余裕ができるという傾向
- ③ 個人主義が強くなると、人はそれぞれの価値観を主張しあうようになる傾向
- ④ 自分の存在価値を見失うと、人は他者の承認も見失うという傾向
- ⑤ 価値観を見失いがちになると、人は伝統的価値観を個人化し相対化する傾向

問三 傍線部C 「新たな『大きな物語』が登場し、敗戦によるニヒリズムを払拭することができた」という記述に関して、日本人の価値観の変化を説明した文として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 15 。

- ① 一九七〇年代半ばに「大きな物語」は崩壊したが、その一方で、個人主義と価値観の相対化が社会全体に浸透した。一九八〇年代以降、高度消費社会に突入し生活にゆとりが生じた。現在は、豊かな生活を実現することが最重要課題となっている。
- ② 一九七〇年代半ばに「大きな物語」は崩壊した。一九八〇年代以降、価値観の相対化は好意的に受け止められたが、それは思想家によるものであつたため、定着しなかつた。現在は、誰もが認める価値ある行為の規準は不明瞭となつていて。
- ③ 一九七〇年代半ばに「大きな物語」は崩壊したが、その一方で、個人主義と価値観の相対化が社会全体に浸透した。一九八〇年代以降、価値観の流動化が生じた。現在は、誰もが認める価値ある行為の規準は不明瞭となつていて。
- ④ 一九七〇年代半ばに大きな影響力を持つ価値観は崩壊した。一九八〇年代以降に生じた承認不安は、バブルの崩壊後に深刻化した。現在は、誰もが認める価値ある行為の規準は不明瞭となつていて。
- ⑤ 一九七〇年代半ばに大きな影響力を持つ価値観は崩壊した。一九八〇年代以降に生じた承認不安は、バブルの崩壊後に深刻化した。現在は、豊かな生活を実現することが最重要課題となつていて。

問四

空欄部

D

に入る言葉として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は

16

- ① 自由に生きる条件
- ② 自由の意識
- ③ 周囲の承認
- ④ 社会共通の価値観
- ⑤ 自己の抑制

には、次の枠内のイ～ヘで構成された文章が入る。論旨が通る順に並べ替えたものとして最も適切なもの

を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 17。

イ そのため、たとえ身近な人間に認められなくとも、自らの行為の価値を信じることができたはずだ。

ロ だが現在の日本社会では、身近な人間の承認は社会共通の価値観とは関係なく、身近な人間同士で共有された独自の価値観が承認の規準になっている。

ハ しかもそれに加えて、相手の気分を敏感に察知し、場の空気を読み、柔軟に相手の言動に合わせることも必要になる。

ニ 無論、社会共通の価値観が浸透していた時代においても、身近な人間に認められるか否かは誰もが気にかけていただろう。

ホ なぜなら、身近な人間は顔の見える相手であり、共有された価値観のほかにも、さまざまな感性や考え方を示しあうことになるので、その微妙な違いが表面化しやすいからである。

ヘ しかしそのような時代には、自分の行為に価値があるか否かは、社会共通の価値観に照らし合わせてみれば確認できた。

- ① ロ ↓ ホ ↓ ハ ↓ ニ ↓ ヘ ↓ イ
- ② ロ ↓ ハ ↓ ホ ↓ ニ ↓ イ ↓ ヘ
- ③ ニ ↓ ホ ↓ ハ ↓ ニ ↓ ヘ ↓ ロ ↓ イ
- ④ ニ ↓ ハ ↓ ホ ↓ ヘ ↓ イ ↓ ロ ↓ イ
- ⑤ ニ ↓ ヘ ↓ ホ ↓ ヘ ↓ イ ↓ ロ ↓ ロ
ホ ↓

問六

傍線部F 「現代の『自分探し』は、こうした親や所属集団の抑圧から『本当の自分』を解放しようという試み」であると筆者が考える理由は何か。空欄部に五十字以内で記しなさい。ただし、「偽りの自分」「本当の自分」という言葉を必ず用いること。解答は国語解答用紙。

五十字以内

から。

問七 本文の内容に合致する記述として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 18。

- ① 敗戦した後、日本の新たな価値観はマルクス主義と戦後民主主義になり、当時の「大きな物語」は、高度経済成長を背景にした便利で快適な生活の実現だった。マルクス主義の影響で人々の豊かな生活は実現したが、生活が豊かになつたので革命の必要性が消えて、マルクス主義も理想ではなくなつた。
- ② 日本が高度消費社会に入ると、個人は自分なりの価値観で自由に生きればいいという考えが広まつた。これをニヒリズムという。ポストモダンという現代思想も、この考えを後押しした。ポストモダンの思想家は絶対的な価値観は存在しないと主張した。
- ③ 現代の日本社会には自由に生きる上での制約が少なくなつたが、一方で、何をすれば認められるのか方向性が見えなくなつた。これを筆者は、ニヒリズムと承認不安の蔓延という。人は自由になるために周囲に同調しがちになり、「自由と承認が葛藤」するようになつた。
- ④ 現代日本では、「自由と承認の葛藤」は顕著になつてている。「自由と承認の葛藤」は、かつては個人の自由と社会の承認の葛藤だった。社会の価値観に従わなければ自己の価値の承認も得られないでの、生きる上での制約を得るために、社会では自己を抑制せざるを得なかつた。
- ⑤ 近年、日本では社会の抑圧が弱まつてゐる。そのため、何をすれば社会に認められるのかも確信が持てなくなつてきた。加えて承認不安は強くなつてゐるので、自分の行為に価値があるのか周囲にいる人々に確認するしか道がなくなつてゐる。葛藤の対象は、身近な人々になつた。

問八 次の1～3の傍線部にあてはまる漢字を、それぞれ①～⑤の中から一つ選びなさい。 解答番号は

19
21

1 ハンヨウ性の高い技術が使用されている。 19

- ① 反 ② 判 ③ 汎 ④ 範 ⑤ 煩

2 シセイに生きる人々の生活を知る。 20

- ① 市 ② 私 ③ 至 ④ 施 ⑤ 自

3 ジンソクに問題を解決する。 21

- ① 卽 ② 早 ③ 則 ④ 捉 ⑤ 速

問九 次の問い合わせに答えなさい。 解答番号は 22
23
24。

1 傍線部の四字熟語の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

一日千秋の想い。

- ① 非常に清々しい
② 非常に不安
③ 非常に懐かしい
④ 非常に怖い
⑤ 非常に待ち遠しい

22

2 作品名と作者名の組み合わせが不適切なもの、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 羅生門——芥川龍之介
- ② 暗夜行路——志賀直哉
- ③ 伊豆の踊子——川端康成
- ④ 山椒魚——太宰治
- ⑤ 二十四の瞳——壱井栄

3 傍線部の敬語の使用方法が不適切なもの、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 先生が講義室にいらっしゃる。
- ② 先生が講義室においでになられる。
- ③ 先生が書物をくださる。
- ④ 先生が書物をお持ちになる。
- ⑤ 先生が書物をご覧になる。

24

23